

1157

Tokutomi

協会賞

昭和37年度

第2回



社団法人

日本放送作家協会

《 T R G 》

「受賞者がきまるまで」

理事長 大林清
(協会賞特別委員長)

山田智也 「釜ヶ崎」 ABC

大坪都築 「現代劇場」 QR

市川崑 「破戒」他 NTV

梅本重信 「ちちははの記」他 NHK

関口象一郎 「女の園」 NHK(BK)

中川晴之助 「すりかえ」 「氾濫」 TBS

男性演技者賞

ハナ肇とクレイジーキャッツ

織田 政雄、小池 朝雄

伊藤雄之助、植木 等

女性演技者賞

池内 淳子、村田 貞枝

森 光子、香川 京子

沢村 貞子

スポンサー賞

資 生 堂、SBカレー

旭硝子、寿 屋

富士電機、日立製作所

NET送り自動車運転手

NTVスタジオ見学案内係

ここで「協会賞特別委員会」(大林清)

委員、山下与志一(副委員長)

長、伊馬春部、永六輔、大倉左鬼、

佐々木恵美子、玉川一郎、前田武彦

宮田達男、山本紫朗、若尾徳平の十

一氏と北条誠常務理事、西島大常務

理事、上野事務局長の三氏)が設立

され広報委員会から協会賞特別委員

会へ実際の活動が移されました。

協会賞特別委員会は前述の各作

品、各候補者について各局より届い

た参考資料をもとに選考を重ね三月

十二日の委員会で最終選考が行なわ

れ、三月十九日に理事会で承認を

得、第二回日本放送作家協会賞受賞

者が正式に決定されたのでありま

す。

なお、受賞者の発表は、三月二十

六日、第一ホテルにて記者会見の席

上で行なわれました。



候補対象が挙げられました。

企画賞(敬称略・順不同)

「兼高かおる世界の旅」 TBS

「日本の伝統」 NHK

「娘と私」 NHK

「東は東」 NTV

「チャリテアワー」 MBS

演出者賞

TRG賞

「娘と私」の番組関係者

茂木草介、和田 精

サンキユウ賞

東京新聞(ラジオ・テレビ欄)

NHK交換台

RKB毎日受付嬢

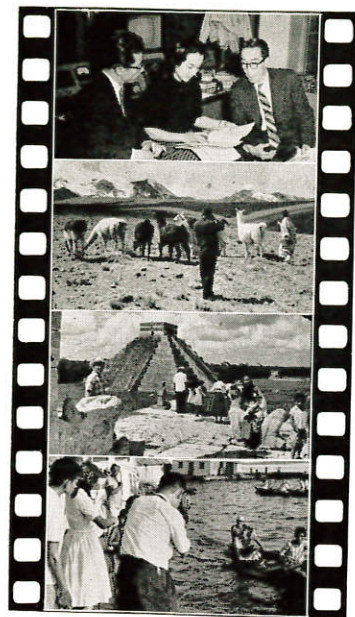
ニッポン深夜放送担当者

企画賞 兼高かおる世界の旅

企画 TBS TV編成局第3演出部
協賛 パンアメリカン航空

同番組は、昭和三十四年、高橋啓氏が教養部副部長時代に企画したもので、同年十二月にスタート。当時の提供会社は、石川島重工で「兼高かおる世界飛び歩き」というタイトルだった。現在のタイトルは、三十五年十月より使われており、三井連合(三井系八社)の提供である。

今日まで、とりあげられた国の数は、独立国七十一カ国、植民地四カ国、計七十一カ国の多きを占めます。充実振りをみせている。



「世界の旅」について

演出総務 高橋 啓

テレビ番組に旅行記が流行したのはアメリカからだ。日本で海外取材に最初にしたのは世界の旅である。第一回の取材班の渡航後、NHKが続いて海外取材に人員を派遣し、その後NTV、フジテレビ、NETが同種類の番組をはじめた。しかし一番長く続いているのが「兼高かおる世界の旅」である。幸にこの番組ではPAAの協賛を得て、またスポンサーも広く海外に市場をもつ三井物産をはじめ三井傘下の八社の連合が絶大な好意と援助をしめして下さり順調に発展してきた。世界七十五カ国の取材をすませ、その豊富なライブラリーを誇っている。日本人の手で日本人の眼でみた世界を聴取者にお知らせしたいという念願が、ここまで大きくなることは夢にもみなかった。ただ条件がよかつたこととスタッフ一同のチームワークがよかつたことがその原因だと思うと、感謝の気持ちで一ぱいである。今回の放送作家協会の企画賞は将来のこの番組に大きな力となると思い、スタッフを代表し有難く拝受する。

若尾 徳平

「兼高かおる世界の旅」を見始めたのは最近のことで、まだ四五回しか見ていないが、現在私の楽しみにしている番組の一つになっている。兼高かおるという女性がどういふ人か実は何の知識もないが、いわゆる外国通の人にはあながちない点がこの番組を成功させている原因ではないかと思う。つまり、彼女は平凡な一女性としての眼で世界の国々の珍しい景色や風俗を見ており、彼女が驚いたり面白がったりすることがそのままブラウン管を通じてわれわれに伝わってくるのである。

世界の国々を紹介する番組は他にもいろいろあるが、特にこの番組を楽しいものにしてほしい。兼高かおるといふ女性を案内役にした企画の成功で、私がこれを協会賞の企画部門に推した理由もそこにある。兼高さんは現在何度目かの取材のため海外へ行つておられるそうで、受賞式を迎えることの出来ないのは残念だが、どうか今まで通りの素直な眼で今後も世界の旅を続けて頂きたいものである。



山田 智也氏

演出者賞 (テレビ部門)

山田 智也氏

大正十五年五月生まれ、大分県出身、財団法人日本映画学校卒業、昭和二十六年、朝日放送テレビの開局と同時に入社。現在、同局演出部課長待遇チーフ・ディレクター。

主要演出作品

- 昭33年、依田義賢作、「ピルの谷間」
- 昭34年、茂木草介作、「雨」
- 昭35年、茂木草介作、「執行前三〇分」
- 昭36年、茂木草介作、「釜ヶ崎」
- 現在、「近鉄金曜劇場」等、演出。

朝日放送テレビ演出部 山田 智也

今回協会演出者賞を載き大変光栄に思っております。

私はかねがね、テレビドラマに限らず演劇、映画をふくめて、その良否の最大要素は台本にあると信じています。「一に台本、二も台本、三・四がなくて五に役者。」これが私の制作信条です。その重要な台本を書かれる作家の方の推薦で演出者賞を戴くことは何だか変な気持ちがあります。

私の過去の作品で、もしも話題になるようなものがあれば、台本と演技者の力がその大部分だったと思います。まだテレビに転籍して三年半の経験しかなく模索の段階ですが、今回の受賞を機会に少しづつでも充実させていきたいと思っております。

「智也さん」のこと

茂木 草介

山田智也氏のことを、拙宅では「智也さん」と呼んでいる。愛称といつていけなければ親称である。智也さんは近頃の大阪名物である「うどんスキ焼き」の材料を抱えて時々フラリと拙宅を訪ね

演出者賞 (ラジオ部門)

大坪 都築氏

大正十四年二月生まれ、福岡県出身。日本大学経済学部卒業、RKB毎日放送局を経て、昭和三十一年、文化放送へ入社。現在、文化放送制作局芸能部次長、副参事。

主要演出作品

- 昭32年、安部公房作、「棒になつた男」
- 昭33年、内村直也作、「沖繩」
- 〃 川崎洋作、「ある運転手の肖像」
- 昭35年、内村直也作、「画廊にて」
- 現在、「現代劇場」を演出。



大坪 都築氏

演出者賞をいただいて

大坪 都築

ほんとうにうれしい。ありがたいことだ。そして、この喜びと光栄をこれまで私と共に作業に参加したすべての人々にわかちあいたいと思う。何故なら、なんとかして「音」それ自身を唯一の手段、方法とする、まぎれもなく現代を呼吸しているラジオドラマを創造しようという私の、あの時は偏執と見えに違いない物狂おしい希求も、それを理解してくれる周囲の精神たちの熱い協力があったならば今日の受賞はあり得なかつたであろうし、更に私にそのドラマを押し進めさせる決意を新たにさせるような、この演出者冥利に尽きる人生経験をもまたとうてい味わえなかつたであらうと思われるからである。

佐々木恵美子

大坪さんには、推せんのコトバをお贈りになる先輩の方たちも、大ぜいおいのことと思えます。今更、私などがたくく申し上げるのは僭越の至りですが、たまたま選考委員の末席をけがし、心から清き一票をささげた一人としてお祝いのコトバにかえてひとこと。

てくれる。そして家内も子供達もそのスキ焼きが好きである。そんな時、仕事の話は余りしない。あのホンは、あの演出は、というような話は、局で会った時でもあまりしない。

時々思い出したように、「ホンを読む時、一番苦勞するのは点々(……)の部分である」とか、「ドラマは、一にホン二もホン、三四がなくて五が役者」などと、まじないのような、そして放送作家が喜びそうなことをいつてニヤニヤ笑っている。つまり、いい意味の苦勞人であり、ハラの据つている大人物なのだと思う。つき合つてから足かけ十二年、喧嘩したことは一度だけあるが喧嘩の事実をどうしても思い出せないという。

そういう智也さんがある時、しんみりといった。「深夜、妻や子が寝静まつた時、ぼくはカット割りをする。その時に一番生甲斐を感じる」——われわれの協会賞であるブロンズ像が、山田智也氏の深夜の書齋にいつまでも飾られてあることを、切に同氏にお願いしたのである。

大坪さんが文化放送に入社されて最初に、芸術祭奨励賞をお受けになつたのは、「棒になつた男」(安部公房氏作)の演出でした。作品のテーマを暗示する、あの、カラカラカーリンと、高所から棒の落ちる音は、今なお私の耳にありありとよみがえってきます。あの印象的な音をキャッチするために、深夜、文化放送の屋上から何十回となく棒を落とし、遂に東の空が白むまで録音をつづけ、その中から選り出した苦辛の作と伺いました。この熱意は、大坪さんの制作態度全般を通じ脈打っているものです。そのあと、「沖繩」「画廊にて」(共に内村直也氏作)の奨励賞。また、その以前、ラジオ九州に在社のころも、「ボタ山」「南国滑稽譚」など郷土色豊かなものを、作並びに演出で受賞なさっております。

ひところ健康をそこなわれましたが、今は前にも増して旺盛に現代劇場など野心的なお仕事をお続けです。ラジオは斜陽だなどと、イヤな言葉はこの際、吹き飛ばしてしましましょう。この才能あふれる、熱意みなぎる演出家に応えて、私たちも一生懸命ペンをとらなければなりません。今日の演出者賞は遅すぎたくらいです。



クレイジーキャッツの方がた

ありがとうございます御座居ます

ハナ肇とクレイジーキャッツ

さて、われわれクレイジーが賞をいただくという事に相成つたとは、何んとも合点が行かないことでもあります。皆んなで頭を合わせて考えました。

「何んで俺達が賞をもらえるのか？」

やつと出たのは、

「俺たちの無責任なバカ騒ぎが対象なんだろ？」

というたよりのない答。

おそらく「賞」というものを全員でいただくのは初めてじゃないかと思えます。それならば、この「……賞」をきっかけとして、今、世界に存在するありとあらゆる賞を「オスカー」に至るまでカタツパンから次々ともらつちやおうと一同たたく決心致しました。いつの日にかわれわれ七名、さんぜんと輝くオスカー像を胸に、ニンマリと笑うステイジ姿を思い浮べながら今後ますます努力致します。

ありがとうございます。

大倉 左 兎

最終審議の席では、かなり強硬な反対意見も出て、モメにモメぬいたが、遂に受賞と決まった瞬間、ボクはまるで自分がもらつたかのように嬉しかった。

昨年度も有力な候補に挙げられていたのに、更に有力な候補が現われて、惜しくも賞を逸してしまつた。しかし本年度は堂々と獲得。推挙した委員たちの特に支持する理由としては、クレイジー・キャッツ全員7人に対してブロンズ一個で済めば甚だ経済的で……（これは冗談）

ハナ肇サンとは、古くからの友達だし、クレイジー・キャッツ生長の歴史をボクはいつも注目していた。特にそのチーム・ワークの良さには敬服している。たいていのグループは人気が昇つてくると、つまらないことから仲間割れをしたりするものだが、クレイジー・キャッツに限つて、そんな懸念は毛頭なさそうだ。

オスカーを狙う意気も結構だが、それよりも、いつまでも愉快な集団演技を電波に乗せて欲しい……みんなが腰の曲つたオールディーズになる日まで。

男性演技者賞

ハナ肇とクレイジー・キャッツ

先ず、メンバーは、ハナ肇、植木等、谷啓、安田伸、犬塚弘、桜井センリ、石橋暎太郎の七人。チーム結成は、昭和三十年四月一日である。
いわゆる「大人の漫画」で、世に出たこのチームは、多くの人気者たちがそうであつたように、かつては「ジャズ喫茶」のアイドルだつた。その以前は、駐留軍の慰問などもやり、苦勞もなめていたわけ、それだけに演技の基本も十分に身につけているといえよう。現在は、植木が、おなじみ、「スーダラ節」の大ヒットを放つなど、歌に、芝居に映画にと、がつちり組んで、大なる躍進を続けている。

女性演技者賞

池内 淳子さん

本名、中沢純子、昭和八年十一月生まれ、東京都出身、十文字高校卒業、昭和二十九年新東宝入社、現在は、東京映画専属。（参加）昭和二十七年ミス日本。

今日までの主要出演作品には、映画、「皇太子の花嫁」「次郎物語」、テレビ「雁」「虞美人草」「女が階段を登るとき」

現在は、「運河」(NTV)に出演中であるが、つい最近まで放送の「雪国」(TBS)と、東宝映画「どぶろくの辰」などは、演技派転向の彼女のあくなき精進振りを如実にみせているものといえよう。



池内淳子さん

池内 淳子

思いもよらなかつた放送作家協会賞を戴いて、ただただ有難く思つております。

新東宝に入社して映画界にとび込んで、右も左も解らぬままに約十年、本業の映画のお仕事をしばらく離れてテレビのお仕事をやつておりますうちに、放送というものの魅力にとりつかれてしまつたような私でした。

昨年春、東京映画の専属になりましたものの、やはりテレビのお仕事だけは続けたいと会社にご無理をお願いして出演させて戴いておりました。その本業の映画でなくテレビのほうで賞を戴いてしまつて、何だか面はゆいような気持ちでございます。

まだまだ未熟な私でございますが、会社のおゆるしがあれば、これからもどんどんさせていだいて、もつと勉強させていただきたいと思つております。

皆様、ありがとうございます。

女優の欲

山下 与志一

珍らしくキモノの似合うひとである。

簡単に略歴をのべると——東京生まれで、三越の呉服売場からグラフ誌のカバーガール。二十九年に新東宝に入社し「皇太子の花嫁」が第一回主演作品。三十二年結婚。
テレビの第一回出演は三十二年のNTVの「眠狂四郎」の美保代役。半歳たらずで離婚し、その後は新東宝の時代劇作品が多く、テレビへの本格的出演は三十五年の「白鷺」に始まる。
つまり泉鏡花作品や「虞美人草」「雁」などに出てオカしくないひとなのだ。いわゆるよろめきドラマのヒロインでは「日日の背信」「白い南風」「波の塔」「顔」等があり、「饗応夫人」「れもん」「花影」「帰郷」「雪国」等の文芸作品につながる。

決選投票で、選考委員の圧倒的支持をえたが、彼女にようやく女優としてのほんとうの「欲」の出てきたことを脚本家たちが知つたと私はみた。この後も自分のペースで仕事をしてゆくひとだろが、時にはそれを乱す飛躍と冒険を望みたいし、またその期待のもてるひとである。



資生堂社長 伊藤隆男氏

スポンサー賞 (テレビ部門)

株式会社 資生堂

「光子の窓」(NTV)以来、一貫して今日まで、テレビのミュージカル部門に貢献、その功績を讃えられて今日の受賞となつた。

現在は、「あなたとよしえ」(NTV)「東は東」(フジTV)を放送中で、前者は、昭和三十六年五月開始、後者は、昭和三十五年六月の放送開始で、足掛け三年目を迎えます。好評である。

他、ラジオで、奈良岡朋子のワンマンショウ「きげんいかげん」(TBS)を放送中。

株式会社 資生堂

取締役社長 伊藤隆男

主にTVミュージカルの確立を目指した番組が多く……という理由でこのたび協会賞を頂くことになりました。

私も化粧品という企業の性格から、絶えず時代の先端を、そして化学的にも技術的にも最新のもの、という当社のモットーの一環として一連のミュージカルを手がけてきたのです。幸い各位のご協力を得て、協会賞まで頂くことになり、誠に嬉しく存じております。

およそ電波媒体では、スポンサーは裏面のものです。提供番組を通じてのみ一般消費者に接しております。それ故今後も、番組は会社の表札として内容の充実、向上を計るよう努力いたします。

特に宣伝の仕事は、各界のご協力を得て、初めてその成果を挙げることが出来るのです。この受賞を機会に、より一層の飛躍を遂げたいと思っております。

脱帽と尊敬と

キノトール

ひとは「日本はミュージカル不毛の地である」

という。

まつたくその通りで、タレントが少ないし、ミュージカルきちがいも少ないし、視聴率も低い。まだ開拓者が必要とする段階だ。

資生堂さんは進んで開拓者になつた。すべての悪条件のなかで「光子の窓」という小さい畑をつくり、根気よく何度も種子をまいた。やがて芽がでて花がさき実がなつた。その実が飛んでゆき、ところどころにミュージカルの花を咲かせた。さらに資生堂さんは種子をまき「東は東」「スタジオNO1」「あなたとよしえ」の実をみのらせた。

日本人は開拓者の努力をそれほど認めようとしていないで、嘲笑したがる。資生堂さんの苦勞も、むくわれるものがあまりにすくない。僕らにしても感謝する以外に何も出来ぬ。

情ないが、不毛の地の現実というべきか。

エスビー食品株式会社

社長 山崎 峯次郎

このたび日本放送作家協会よりスポンサー賞を受賞いたしましたことは、わが社にとりまして望外の喜びでございます。

わが社は早くからマスコミュニケーションの手段としての電波を重視してまいりました。それは現在、これほど速く、これほど遠くまで、これほど確実に商品に関する知識を伝達してくれるものはないからであります。

最近わが社が次々に製造いたしました新製品の名前や性質やまたその優秀性が、いち早く全国津々浦々まで普及しましたのも、ひとえにラジオのおかげと厚く感謝しております。

その折、現代の著名作家の名作をラジオドラマとして放送できましたことも、わが社にとつて大きな喜びでした。それによつて香り高い立派な娯楽を一般大衆に与え、文化の向上、大衆の啓蒙にいささが微力をつくしえたと思ふからであります。

今回の受賞を日本放送作家協会に深く感謝すると共に、この放送のためにご協力下さつた全スタッフの方々にも心からお礼申し上げます。

北 条 誠

スポンサー賞は、他の賞とはちがひ、その業績をたたえるだけでなくいくぶんかはわれわれの感謝の意味も含まれるとぼくは考へる。

民間放送の場合、スポンサーの良識と善意が、実に大きく番組に作用するからである。

エス・ビー食品は、永いこと民放共同製作の帯ドラマを提供し、主婦対象の帯ドラマという一つの場を確立した。「よろめきドラマ」と言へば、誤解を招くかもしれないが、ラジオドラマの中に高い娯楽性を盛り上げる一つの傾向も、そのため今日隆々とさかえた。

テレビの流行以来、とかく斜陽化を伝えられるラジオの世界にあつて、数年間、そのラジオドラマの世界を支へつづけたことは、見事な見識である。しかも常に高い聴取率をつづけた。

企画、制作に対するエス・ビー食品の熱意と理解の深さに対してぼくたちは感謝を抱いている。



エスビー食品社長 山崎峯次郎氏

スポンサー賞 (ラジオ部門)

エスビー食品株式会社

同社は、民放開始以前から、「姿三四郎」「花の講道館」等、文芸ドラマ作品を手がけ、その歴史は深い。ラジオにおけるドラマ番組の提供者として自他ともに認めているわけだが、今回の受賞も、その功績を買われたものである。

ちなみに、同社の今日までとりあげてきた作品を列挙してみると、「飢える魂」「日日の背信」「女であること」「華やかな氷河」「風とひばりと丘」「氾濫」「顔」「虹」「愛情の系譜」等々多種多様。

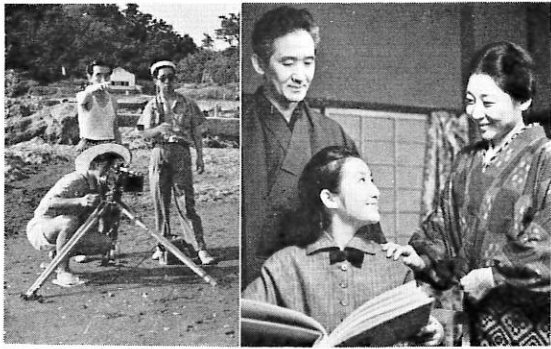
現在は、沢野久雄原作、矢代静一、西島大脚色「落葉樹」(文化放送)を放送中。

TRG賞

「娘と私」の番組関係者

テレビ小説という新しい分野の開拓に、NHKは、これまでも幾つかの試みをして来たが、月曜日から土曜日まで、毎朝の連続ドラマとしていつも各家庭に於て新聞連載小説を眼で見る形式で一年間に渉り、この「娘と私」を続けた功績は、高く評価されてよい。

作 獅 子 文 六
脚色 山下与志一



放送開始
昭和三十六年四月
演出者
丹羽 一雄氏
田中 昭男氏
スタッフと出演者

NHKテレビ文芸部

丹羽 一雄

連続テレビ小説「娘と私」は、昨年の四月三日に第一回放送を開始したのですが、回を重ねて二五〇回この三月三〇日の最終回には、麻理も無事結婚式をすませ、黒い大きな翼を持った鳥の様に「パリ」へ向つて、羽田を飛立つて行きました。

この番組は、企画の当初から、テレビ小説という新しいジャンルの確立をも目指していたわけですが、語り部分の画を如何に創るかと言う問題も勝れたセットデザインとカメラ技術の協力で、次第にその形を整えてきたと思つていいます。脚本の良さは、勿論、いう迄ありません。

放送と共に好評の投書を沢山いただく様になり朝、八時四〇分、テーマ音楽が始まると、各家庭の掃除の音が一斉に止んだと云う伝説？まで生んだのですが、之は、演技、演出、技術、美術、全てのスタッフが、みんないい人許りで、気持ちいいアンサンブルの中で仕事が出来たためと思つています。

今度、TRG賞をいただくことになりましたがこの人たちに、この上ないお礼が出来たと、嬉し

い限りです。

西島 大

連続テレビ小説「娘と私」の、ぼくは実に勝手気ままなファンだった。毎日のように観ている時期があつたかと思うと、月に一度か二度しか観ない時があつたりした。それでいて、いつも同じような味わいを感じていた。それは、ぼくが原作の愛読者で、筋をよく知つていたからだけではなく、(事実、あの脚色には原作にない筋や登場人物も、かなり織り込まれていたと思う)あの番組自体が、ストーリーの変化や、演技のくすぐりの面白さを狙わず、独自の雰囲気を探せながら、悠々として流れていったせいであろう。

娘役を演じた俳優が、三代も変わつて、ぜんぜん違和感を感じさせなかつたのも、単に脚色者、演出者の功績を讃えるのみでなく、番組の関係者一同が、まことによく、あの独自の雰囲気を体得していたからに他ならないと思う。

皆さん、ほんとうに長いあいだ、ご苦労さまでした。

サンキユウ賞

東京新聞ラジオ・テレビ欄

昭和三十一年九月十六日、ラジオ、テレビ欄を設け、現在に至る。爾来、話題の豊富さと、公正な立場に立つて、放送界の動きを良く捕え、放送界の指針という役割を果たしている。紙面は、薄フジ色で、先ず、第一面は放送界の総合面、ニュース、読物、インタビュウ、批評、裏話など多種多様、記事としては、「6音6画」「反響欄」「月曜モニター」「放送音楽評」など、第二、三



スタッフのかた方)
面は、プログラム並びに内容紹介、第四面は、家庭欄(含む小説)となつている。編集スタッフは、部長、宮川謙一氏以下九名、他、臨時員数名がいる。



宮川 謙一氏

サンキユウ賞を受けて

宮川 謙一

今日までの私たちは、商売がいろいろなジャンルの授賞式や祝賀パーティーに招かれてきましたが、私たち自身が賞を受けるといふのは初めての経験で、いかにうれしいものであるかがよくわかりました。とくに貴協会の皆さんとは、仕事の上でも陰に陽に深いつながりのあることですし、日ごろ親しくしていただいている仲ですから、言わばヨソ行きでない、心から自然なうれしさのわいてくるのを覚えます。ほんと肩をたたかれています。

「サンキユウ」と握手を求められたような暖かい喜びです。と言つても、私たちは決して今回の受賞を軽々しく考えているのではなく、協会賞のブロンズ像が示している「ふたば」の意味をしつかりと肝に銘じ、新たな出発点に立つた気持ちで、紙面作りに精進したいと思います。今後も協会の皆さんに一層のご支援をお願いいたします。有難

うございました。

大林 清

協会賞受賞者をきめる最終の委員会には、生憎旅行中で参加出来なかつたが、あとで、サンキユウ賞に、東京新聞ラジオ・テレビ欄が、満票で決定したと聞いて、わが意を得たという思いがした。

私の家でもそうなのだが、多くの家庭ではその日のテレビあるいはラジオの番組を、各放送局の予告で知るよりも、新聞のラジオ・テレビ欄で知ることの方が圧倒的に多いようである。その意味で、各新聞のラジオ・テレビ欄が果たしている役割は大きく、私たち放送関係の仕事に携わっている者としては、常々感謝の気持ちを何かの形で表わしたいと願つてきた。それが今回のサンキユウ賞決定に際して、期せずして全委員の気持ちとなつて出てきたのだからと考えている。

東京新聞のラジオ・テレビ欄がえらばれたという事は、各新聞社の代表という意味も含まれているし、また、特に東京新聞社がこの欄に力を入れて、頁を多く費し、単に番組の紹介に止まらず放送界の動きを的確に捕えて、公正な立場で報道されている熱意は高く評価されて良いと思う。

今回の受賞につき、東京新聞の皆様にお祝い申し上げますと同時に、この機会に各新聞同欄担当の方々にも深く感謝いたします。

祝

社団法人

日本放送協会

千代田区内幸町二ノ二

代表 五〇一—四二二一

祝

株式会社 文化放送

新宿区若葉一ノ五

電話 三五二—四二二一

祝

株式会社 ニッポン放送

千代田区有楽町一ノ七

電話 二八一—五二五一

祝

株式会社

東京放送

港区赤坂一ツ木町三六

代表 四八一—八七一一

祝

株式会社 第一広告社

中央区銀座西二ノ一

電話 五六一—七九五二

代 事 同

日本放送作家協会の沿革

日本放送作家協会は放送作家の社会生活並びにその職能を擁護し、親睦を図ると共に放送文化の向上発展に寄与することを目的に昭和三十四年九月十八日の創立総会において、久保田万太郎を会長として発足した。

その後次第に組織も固まり、協会の方針も確立されてきた。即ち、九月三十日各役員を互選、十月九日の理事会での各委員会、地方支部の設置、理事長内村直也の選任、協会の維持費等に関する審議が行われ、以後各委員会が業務を開始した。

先づ、著作権委員会は、北条誠（渉外委員長）を中心として、日本文芸家協会、日本演劇協会その他の関係諸団体と会談、その処理や業務範囲などの取りきめを行い著作権法の分野でもつとも立ち遅れておられると思われる放送著作物の権利の在り方を確め、放送作家の基本的な権利保護の問題を扱って来た。しかし昨今の放送界において使用者と権利者との間におきる種々の係争は著作権法以前の問題が多く、ために、別に渉外委員会（委員長北条誠）を設けて著作権に隣接する現実の係争の処理解決にあたることとなつた。

一方、会規委員会（委員長上野一雄）では、会員の増加や、各地で結成された支部の活発な動きにつれて更に細部に亘る協会内規が要請され支部規約、会則の一部改正、細則などを起草、他方、事業委員会（委員長伊馬春部）においては、番組相談室の設置や新人作家、コピーライター等の養成を目的として放送文芸研究室（室長高橋邦太郎）、CM教室（室長並河亮）の開講、TBSや東芝商事との梗概執筆契約の取り交わし日本放送作家協会賞の設定などをとり決めた。

この他、海外への放送ドラマの紹介や、海外類似団体との交流の呼びかけ等が国際委員会（委員長江上照彦）において行われ、別に各地支部業務の連絡、連絡を密接にしつつ、以上列記の事項を推進、確立して行くための財務委員会（委員長内村直也）の設置を図るなど着実な進展を遂げて来た。

かかる事態とともに、事務上の処理も迅速適確に行う必要が生まれ、三十五年三月、事務局長に梅田晴夫が就任、事務局の基本体制の強化に努め目的を果たして、三十六年三月渡欧を機会に退職した。

また先に設定した日本放送作家協会賞は、五月十一日午後六時よりサンケイ会館においてその贈呈式が多数来賓出席のもとに華々しく挙行された。

他方、放送作家の権益と生活の確立擁護のために協会の最大関心事としてかねてより懸案であつたNHK脚本引上げ交渉は、脚本料ランクの一律引上げ、最低脚本料の増額確保、創作委嘱料と脚色委嘱料の均一化の三項を旗印に、特別委員会（委員長上野一雄）を組織して、同年二月より交渉を開始した。

それと併行して民放テレビ四社に対しても同様の努力をつた。即ち、日本著作権者団体協議会の放送専門部会を窓口とし、各友好団体との共同歩調のもとに交渉が持たれた。そして数度に亘る接衝の結果、NHKとは九月一日付の発効契約をもって正式調印、民放テレビ四社とは十月一日付発効の契約をもって文書の正式調印がなされ、ここに、曲りなりにも放送作家の生活権益の保障の道は拓けることとなつた。

かくて脚本引上げ交渉の妥結、協会の内部機構の拡大膨張につれて協会の基本体制が必然的に討議されることとなり社団法人化取得を目標に一步を踏み出すこととなつた。そして九月十五日の理事会は社団法人化取得のための申請書類を一括して提出することを決定、十月二十三日電通西別館一階の申請書で行われた第二回臨時総会では満場一致、社団法人設立の決議を行い設立代表者に内村直也を選出、今春早々の取得をめざして文部省に申請を行うこととなつた。

同時に当日は役員の変更も行われたが、これにより協会の会務組織に若干の修正が加えられ、以後の協会活動は新しい体制に沿って運営されることとなつた。

即ち、会長久保田万太郎の再任、懸案であつた理事長、常務理事二名の選出は推薦の形で行われ、理事長に大林清、常務理事に北条 誠、西島 大が就任、その他各理事、監事、評議員の選出決定をみた。

次いで、委員会改組、委員長の任命が行われ、ここに総務室をはじめとする一室九委員会の設置をみ、爾来活発なる活動を行なつてきた。

この間、事務局内事務も円滑に推進され、未定だつた事務局長の要職には堀江史朗理事がこれに当り、次いで井出昭がこれを引継ぎ、代つて上野一雄理事が新たに局長として就任、事務局運営上の整備体制がとられてきた。

その他コピーライター養成の目的をもって講習を続けてきたCM教室は三月三十一日めでたく修了式を行い、第二期生一五〇余名を世に送りだした。さらに第三期を継続開講、先に2クラス八十名の室生を募集、目下開講中であるが、併せて中断していた放送文芸研究室（室長森永武治）も同時に第三期を開講、両者とも本年四月より講義を行つている。

このほか文芸美術国民健康保険組合への団体加入、著作権者団体協議会への加盟、会員の著作物調査、会報（放送作家ニュース）の発行、会員名簿の発刊など着実に発展を遂げた。

かくて、四月二十七日文部省より社団法人の認可もおり、傍ら、昨年に引き続き第二回日本放送作家協会賞の選考が進められ、第一次、第二次に亘る投票の結果、ここに会員五五〇名の総意を結集、栄ある四月三十日の昭和十七年度「第二回日本放送作家協会賞」の授賞式典を迎えたのである。

現在会員数 五五〇名（37・4・10）

T R G 3 年 の 歩 み

1959. 9. 18 ヴィデオホールにおいて、創立総会を行い、会長に久保田万太郎、理事長内村直也ほか各役員が選出された。

11. 14 第二回常任理事会において運営（南江治郎）財務（故大島得郎）企画（堀江史朗）著作権（北条誠）各委員会の設置決まる

11. 30 会報第1号発刊（編集伊藤海彦、田井洋子）B4判孔版印刷4頁二段組。

12. 10 「番組相談室」を設置（室長内村直也）。賛助会員の要請に基づいて番組の批判、診断等を行い、事業企画、番組企画の助長をはかるコンサルタント機関である。

12. 17 雑誌テレビドラマ「雨」の無断掲載をめぐる原作者茂木草介より厳重な抗議がなされた。著作権委員会の斡旋にて掲載料謝罪金を支払い、謝罪広告を掲載するという事で解決した

1960. 1. 17 テレビタレントセンター教室において臨時総会を行い、会則の一部変更。

1. 18 株式会社電通、協会の賛助会員となる。

2. 20 鈴木政男脚色「はだか放浪記」がハワイ民放において再放送されたが、再放送料が不当に安すぎるとして氏より提訴。

3. 2 桂 一郎、赤坂長義共同脚色「ぶつつけ本番」をテレビドラマ誌が無断掲載したことから両氏より抗議がなされ、脚色者TBS・テレビドラマ社三者が話し合いを行った結果諒解点に達した。

山下与志一作詞「あんみつ姫」主題歌がキングレコードより発売されたが、作詞料の支払いなきため氏より提訴。

3. 5 関西支部の発会式行なわる。

3. 10 放送台本の無断掲載が多いことから、放送局、代理店、雑誌社に対し、著作委員会より自粛を要する申入れを行う。

3. 18 株式会社大広、賛助会員となる。
株式会社文化社、賛助会社となる。

3. 22 株式会社博報堂、賛助会員となる。

3. 24 河野典生「黒い銅版画」台本の放送中止（フジ）を不満として協会に提訴。

3. 30 前田武彦が週刊文春1月4日・2月8日各号に掲載したコントがDJ番組の語りの部分に無断使用されたことから、著作権委員会において厳重な警告を発した。

4. 1 梅田晴夫事務局長に就任。
文芸美術国民健康保険組に団体加盟する。

4. 4 寺山修司作「大人狩り」（RKB、ラジオホール）が、福岡県教職連盟、福岡県議会、市議会においてテロ革命推進ドラマであるとの認定を受けたが氏はこの曲解を不当であるとしてテープ試聴を協会に要請。

4. 6 「投稿作品批評室」設置—協会宛の放送作品の投稿に対し、担当者を決めて、その作品の批評助言を有料において行う機

関である。

5. 10 日本放送協会、協会の維持会員となる。
台本執筆依頼書を提案し、東京テレビ4局の著作権担当者と話し合う。

5. 31 銀座米津風月堂において第2回定時総会を行い、会則の変更および新役員の選出を行なう。

6. 11 第8回理事会において委員会改組が行われ、新たに事業委員会（委員長堀江史朗）渉外委員会（委員長梅田晴夫）国際委員会（委員長江上照彦）が設置された。

6. 25 放送文芸研究室（室長高橋邦太郎）開講—純粋に新人放送作家の養成を目的とした、6ヶ月間を単位とする放送文芸作法講座である。

7. 14 テレビドラマ社と放送台本の再録料、および掲載料に関する取決めできる。

7. 15 松田妙子、秋山雪雄両氏を迎えて第一回月例講演会を開催した。テーマは「アメリカにおける放送界の現状について」

7. 30 井出昭が大阪電通の需めに応じて書きおろした梗概「しやぼん玉夫婦」が制作中止となり、梗概料支払いをめぐる協会で提訴。

8. 6 第3回常任理事会において会規委員会（委員長上野一雄）の設置を承認した。

8. 15 第2回月例講演会開催「ラジオの今後のあり方」宇井英俊氏（NHK国際局）見島正憲氏（ニッポン放送文芸部）間宮雅雄氏（ラジオ東京演劇部）

8. 20 新朝日ビル11階会議室において関西支部臨時総会開催。

8. 31 藤善平「森繁の世界漫遊記」NETフィルムルポルタージュ番組の企画権を主張し、協会に提訴。

9. 8 放送作家の執筆契約規定の起草を目的として、新たに著作権研究委員会（委員長井出昭）が発足した。

9. 15 梗概提出業務開始、NTVよりの依頼に基きテレビドラマ梗概の提出を行い企画に協力。

9. 20 中部支部（支部長牧野不二夫）発足、於名古屋電通会議室。

10. 4 西島大「南の国の…」（RKB毎日テレビ、35年度芸術祭参加作品）が突然制作中止となり、これを不当であるとして氏は協会に提訴。

10. 5 協和広告株式会社、協会の賛助会員となる。

10. 19 岸田衿子「オンデイヌ」（NHKイタリア賞受賞作品）制作経過に関する不満を表明し協会に斡旋方を依頼。

11. 1 東芝商事との「概要提供」に関する覚書発効。

11. 15 「CM相談室」を開設、賛助会員のコマーシャル批判、助言および企画文書を行うことが目的である。

12. 1 株式会社東京放送、協会の賛助会員となる。

12. 10 日本著作者団体協議会に正式加盟する。

12. 30 東芝商事株式会社、協会の賛助会員となる。
関西支部、大阪地区の各局に対し台本料引上げの申入を行なう。

1961. 1. 7 九州支部（支部長木村祐章）発足。

1. 9 「放送文芸研究室」第二期開講

1. 25 「CM教室」第一期講座開講。

2. 8 「協会賞」受賞者決まる。

2. 22 椎名竜治「大阪野郎」の題号権を主張、保護を依頼した。

3. 6 特別委員会（議長上野一雄）NHKと脚本料格差調整に関する第1回目の話し合いを行う。

3. 11 委員会改組が行われ、著作権委員会と著作権研究委員会とが合併、委員長は井出昭、渉外委員長に北条誠が就任した。

3. 25 関西支部第2回定時総会開催さる。

4. 8 梅田晴夫事務局長を辞任。

5. 11 第三回定時総会開催、社団法人申請を決議。第一回協会賞受賞式。

6. 2 民放テレビ四局著作権担当者との著作権セミナー開く。

6. 30 「放送文芸研究室」第二期終了。

7. 19 井出昭事務局長に就任。

7. 28 委員会改組行なわれ、会規委員長若尾徳平、著作権委員長西島大、財務委員長堀江史朗、又脚本料値上げ対策のための特別委員会が新設され委員長に上野一雄が各就任。

8. 26 「CM教室」第一期終了。

9. 22 民放テレビ四局と脚本料改正に関し正式調印。

9. 30 中部支部第二回定時総会開催。

10. 5 「CM教室」第二期開講。

10. 23 第二回臨時総会開催。社団法人設立の決議を行ない、設立代表者に内村直也を選出、同時に役員改選が行なわれた。

11. 8 役員改選後初の理事会が開かれ、理事長に大林清、常務理事に北条誠、西島大が選出された。

11. 22 井出昭事務局長を辞任、新事務局長に上野一雄が就任。同時に委員会の大幅な改組が行なわれた。

12. 11 NHKと脚本料ランク改正に関し正式調印。

1962. 1. 21 九州支部総会開催、新支部長に帯谷瑛之介が就任。

1. 27 第三回理事会で新事業を強力に推進することを決議。

3. 19 第二回協会賞受賞者決定。

3. 31 「CM教室」第二期終了。

4. 2 「放送文芸研究室」第三期開講。

4. 3 「CM教室」第三期開講。

4. 27 文部省より社団法人の認可おきる。

役員及び委員会構成

【役員】	會長 久保田万太郎	田井洋子	木下順二	委員長	永六輔
理事長 大林清	高橋邦太郎	郷田豊吉	齊藤直志	副委員長	キョートール
常務理事 北条誠	谿太一郎	田中澄江	館直志	顧問	江上照彦
理事 西島大	玉川一	谷屋充	田井洋子	顧問	川島順平
理事 阿木翁助	寺島アキ子	辻久一	寺島アキ子	顧問	平井イサク
理事 市川三郎	寺田信義	筒井敬介	矢代静一	顧問	飯島正
理事 井出昭	鶴田忠元	徳川夢声	田井洋子	顧問	新井豊
理事 伊藤海彦	長沖一	中江良夫	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 伊藤春部	並河亮	西沢実	矢代静一	顧問	飯島正
理事 植草圭之助	名和青朗	八田尚之	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 上野一雄	堀江史朗	久板栄二郎	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 内村直也	前田武彦	北条秀司	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 梅田晴夫	三木鮎郎	牧野不二夫	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 永六輔	村田修子	真船豊	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 江上照彦	茂木草介	水木洋子	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 大倉左丞	山下与志一	村上元三	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 小沢不二夫	菅原卓	八木隆郎	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 香住春吾	南江治郎	八住利雄	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 桂一郎	秋田実	依田義賢	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 金貝省三	飯沢匡	風早美樹	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 キョートール	内海重典	風早美樹	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 木村祐章	宇野信夫	風早美樹	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 京都伸夫	風早美樹	風早美樹	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 佐々木恵美子	川口松太郎	伊馬春部	寺島アキ子	顧問	飯島正
理事 しのぶ	菊田一夫	山下与志一	寺島アキ子	顧問	飯島正

祝
株式会社 電通
中央区銀座西七ノ一
電話 五七一八一一

祝
株式会社 博報堂
千代田区神田錦町三ノ二二
電話 二九一三一一

祝
株式会社 大広
東京支社 中央区銀座西七ノ五
電話 五七一四九六一

祝
協和広告株式会社
中央区銀座西四ノ五 西銀座ビル
電話 五三五〇一

祝
株式会社 文化社
中央区銀座東一ノ二 不二ビル
電話 五六一一五九六六

祝
東芝商事株式会社
中央区銀座西五ノ二
電話 五七一五七一

万年筆のことなら インクのことなら

御相談下さい

外国製でも

和製でも

ボールペンでも

どんな

修理でも

どんな

インクでも

どんな

万年筆でも

どんな

ジェーファー・ウォーターマン・指定修理部—中央区京橋2の4明治屋OSS万年筆部・電話271-1138・

有限会社

岩井商店

日本放送作家協会
特約委託販売店

もちろん欠点もあります
しかし数々の長所………

株式相場の低迷期に
これからの株をしこむ

加マルの投資信託

一年もので最高の利率
しかも元本保証の

割引債券

ご連絡しだいご説明に参上いたします
有楽町0番地フードセンター東館 (535) 2901~3

角丸證券

有楽町営業所

所長 高木 幹 雄

昭和三十七年度 第二回日本放送作家協会賞

贈呈式次第

- 一、挨拶 会長 久保田万太郎
- 二、全理事長 大林清
- 三、祝辞 NHK放送総局長 春日由三
- 四、全民放連会長 足立正

各賞贈呈及び受賞挨拶

一、企画賞 「兼高かおる世界の旅」ⅡTBS・STV編成局

編成局長 大森直道

二、演出者賞 テレビ部門 山田智也 (ABC)

三、演出者賞 ラジオ部門 大坪都築 (QR)

四、スポンサー賞 テレビ部門 株式会社 資生堂

社長 伊藤隆男

五、スポンサー賞 ラジオ部門 エスピー食品株式会社

社長 山崎峰次郎

六、TRG賞 「娘と私」の番組関係者

芸能局長 長沢泰治

七、サンキユウ賞 東京新聞ラジオ・テレビ欄

文化部長 宮川謙一

八、男性演技者賞 ヘナ肇とクレイジー・キャッツ

(渡辺プロダクション副社長 渡辺美佐)

九、女性演技者賞 池内淳子

なお贈呈式のあと

楽団シックスジョーズ 演奏

赤坂小梅 出演

大当り沢山の福引余興

等の用意があります。

ゆつくりおたのしみ下さい。